

# 挑戦

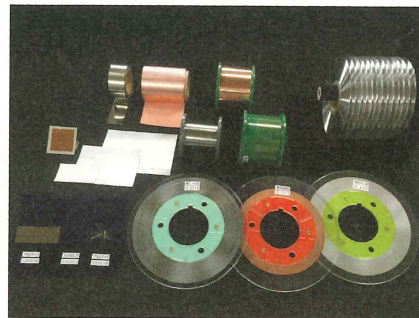
勇氣ある経営大賞 135

1974年の創業以来、あらゆる非鉄金属の加工を行っている仲代金属（安中茂社長）。オンリーワンの技術を極め、切断が難しいアモルファス合金のスリット加工に成功するなど、長年蓄積してきた技術を原動力に数々の困難を乗り越えた。ひたすら誠実に金属と向き合い、クオリティを高めるため日々前進している。

10代で金属業界に足を踏み入れた安中社長。スリット加工の奥深さに魅せられ、熱心に技術を学んだ。スリット加工を極めるべく、勤めていた商社を辞め、1974年に独立に至った。

しかし、当時は金属の売買が主流で、金属加工は注目を浴びていなかった。技術を活かせるニーズが少ない状況が続いたが、それでも安中社長は諦めず、

長年培った技術で加工された製品



## 積み重ねた技術でオンリーワンを目指す

仲代金属（第19回 勇氣ある経営大賞 優秀賞受賞）

ひたすら技術を磨き続けた。「仕事が来たら勉強しても間に合わないで、先に腕を磨こうと考えていました。技術を極めることに夢中で、不思議とつらい、やめたいなどは感じませんでした」と当時を振り返る。

### 立ちばだかる難材の壁

87年、同社は大手メーカーからアモルファス合金の加工依頼を受ける。今まで数多くの金属を加工し、技術には自信があったが、切断に難航。摩擦熱で刃を溶かすほどの硬さと、抑え込むと割れてしまう脆さを併せ持つアモルファスには、今まで積み重ねた知識が全く役に立たなかったのだ。それでも諦めることなく、研究を続けた。成功

した時には多額の損失があったが、「この経験を経て、金属に向かう心や姿勢が素直になり、切ることがどんどん楽しくなりました」と安中社長は笑顔を見せる。金属の個性に合わせた切り方を追求し、今では600種類超の金属加工に対応できるまでとなった。

### 度重なる試練を救った技術力

2000年頃、同社は顧客のニーズに対応するため中国へ進出。しかし、企業文化や考え方の違いにより、経営は順調に進まなかった。特に、現地での人材育成には苦戦した。「熱心に学ぶ人ほど辞めて独立してしまうため技術伝承が行われず、何のための海外進出なのかと考えさせられました」。

気付けば負債は11億円に。この状況を救ったのは、長年培った技術だった。急激に高まる電気自動車の需要に伴い、当社の技術力を知る自動車メーカーからの受注が急伸。大手自動車メーカーの電気自動車用リチウムイオン電池に



「今でも新たな素材に出会うのが楽しくて仕方がない」と安中社長

使用されるタブリードでシェア100%となるなど、現在も国内外からの受注が増え続けている。

同社のモットーを、安中社長は「ナンバーワンではなく、自分にしかできないオンリーワンの技術を大切にしたい」と語る。「常に完璧な技術を提供することで、結果がついてきます。自信をもって提供できる技術を磨くため、社員一丸となってまだまだ学び続けます」と仲代金属の挑戦は続く。

### 仲代金属

1974年創業。資本金2,500万円。

各種非鉄金属スリット加工、シートカット加工を行う。足立区。



## 始めよう! 越境EC

私たちの生活は、多くの輸入品に囲まれています。海外の有名ブランド品はもちろん、海外旅行で体験した現地のおいしいグルメも日本に輸入され、

## 輸入規制と外国語でのコミュニケーション

第3回

用できるものであっても、海外で使用が認可されているとは限りません。また、ラベルの表示も現地語での記載が求められます。海外で人気が高い日本

語で問い合わせがあった場合、その対応に戸惑う方も多いでしょう。身近にその言語に明るい人がいれば良いですが、まずは辞書や自動翻訳アプリを利

りますが、まずは日本語で文章を作成し、自動翻訳アプリで翻訳することで、ある程度対応できます。数多くの自動翻訳アプリが存在しますが、自然な翻訳が可能なDeepLや広く認知されているGoogle翻訳などが代表的です。最近の自動翻訳アプリは、精度が向上しています。ぜひ一度お試しください。